

# 山麓探偵団通信

11月号

森に、カケスの鳴き声が響きわたり、木々が日に日に黄色をおび、秋の深まりを知るこのごろです。

さて、十月の探偵団は、スバルライン二合目の東剣のふもとからかつて戦時中から戦後にかけて木炭バスの走った道をたどり、三合目旧バス停ロータリー(数十年前に閉鎖)から樹海台駐車場におりる、まさにとっておきの隠れコースを案内していただきました。

カツラの木の醤油煎餅の香りに誘われながら、数々のキノコ(チヤノメ・ショウゲンジ・アシナガ・ツチグリ・クロハダ)やオオカメノキ、コメツガ、ナナカマド、ツルバナ・カエデなどの樹木を愛で、また、数百種にのぼるだるう豊かな苔の絨毯に感嘆の声を上げ、秋に緑を満喫するという、大変めずらしい体験をしました。帰路に発見した火山弾の重さと色も、印象的でした。

歩きはじめから約五時間、鹿の糞やテンの後姿は目に入りました。人間にはまったく遭遇しませんでした。かつての観光登山の繁栄を、道のあちこちに垣間見ながら、自然科学と人文の世界に、同

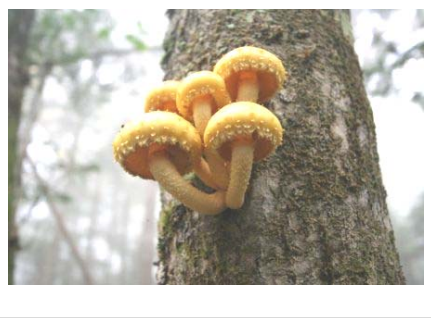
時に足を踏み込んだような、探偵団ならではの、ぜいたくな一日でした。

## ◆参加者の感想

### 富士山頂の白い月

その昔、富士山登山に木炭バスが使われていたことがあったという。

ひっそりと忘れ去られたような旧道を知る人は少ない。



<今年はキノコが豊作のようです>

二合目付近のスバルラインから森の中に入り、しばらく歩くとなどらかな道が目の前に広がる。色づきはじめた木々、苔むす森のあちこちに顔を出すキノコたち。時折降りてくる霧は、秋の静かな一日を一層幻想的に彩っていた。

登山客を乗せた木炭バスがのどかに登っていく光景を想像しながら、ゆっくりゆっくり歩く。スバルラインを一気に駆け上がる現代

の観光バスでは味わえない、のんびりした時の流れが、往年の木炭バスにはあつたのだろう。

昔の登山者もトコトコ登っている木炭バスの車窓からこの風景を眺めていたかと思うと、一層ゆつたりとした気分が包まれて、歩きながら心地よい眠気を覚えた。

ゆつたり、ゆったりとした時間を過ごすことも、富士山の魅力のひとつ!

旧道の先にはかつてのバス停ロータリーがあり、大正15年に建てられた石碑が往事を語っている。ロータリーを背にして、ふと後ろを振り返ると、いつの間にか富士山頂が姿を現していた。山頂の上に、勳章のような白い半月を戴く富士山の、誇らしげな堂々とした姿!

さすがである!

団長の伊藤さん、今回も素晴らしいコースを案内して頂いてありがとうございます!(T・S)

## ◆十一月の探偵団活動ご案内

### 〈昆虫シリーズ・紙に写す〉

自然細密画家の木村修さんにご指導いただき、テントウムシを描いてみる半日を企画しました。絵は苦手という方、苦手でけっこう

絵ではなく、テントウムシに近づき、その体の成り立ちをよく観察していくうちに、意外にも絵筆が動いてしまう体験を、ぜひともごいっしょしませんか!

・ 十月三十日(土)

・ 十一月四日(木)

○集合〓朝十時

○場所〓土曜は、ガラリエ・オム

木曜日は、喫茶室あみん

○参加費〓2300円

○持ち物〓エンピツ(HBか2B)

スケッチブック・読書用メガ

ネ・筆を拭くティッシュ・昼食・

マイカップ・任意でルーペがある

と便利かもしれない。

絵の具と筆は、ガラリエ・オム

さんでお借りします。

○申し込み・問い合わせは三日前

までに、電話かメールをお願いします。

■□■□■□■□■□■□■□■□■

### ◆お知らせ

十二月の探偵団は、アルピニ

ストの戸高雅史さんに団長をお願い

して、十一月十一日(土)の一日

限定の日帰り催行を予定しており

ます。今年最後の探偵団を、どう

かご期待ください。

発行〓山麓探偵団 事務局

山梨県山中湖村平野一六九八

電話〓五五五・六五・七〇二三